

- 文書館企画展「磐田の産業史～磐田の近代を支えた茶、煙草、甘藷切干、そして銀行～」 P1～2
- 文化財の道しるべ 北部編 P3
- 10月実施の指定無形民俗文化財について P4
- コラム『古より特産物である前浜の“かつを”』 石津由行 P4

磐田市歴史文書館企画展を開催します！！

# 磐田の産業史

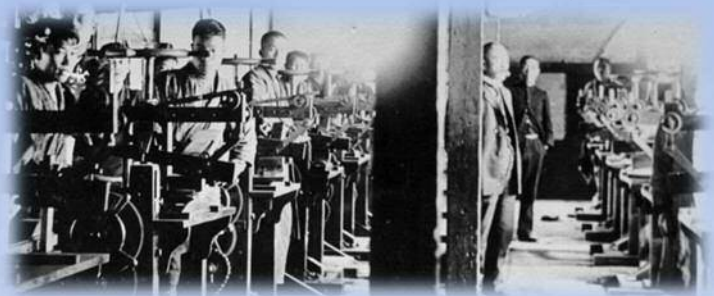
～磐田の近代を支えた茶、  
 たばこ かんしょ きりぼし  
 煙草、甘藷切干、そして銀行～



歴史文書館イメージキャラクター文字朗



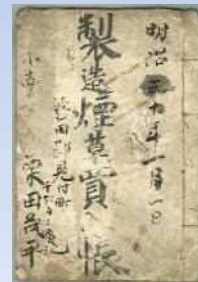
みくりや 御厨尋常小学校児童の茶摘み実習



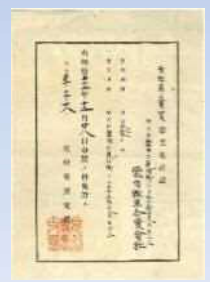
煙草工場の内部

令和2年  
 11月2日(月)  
 ～12月18日(金)

- 休館日 土・日・祝日
- 時間 9:00～17:00 (入場は16:30まで)
- 入場料 無料
- 会場 磐田市歴史文書館展示室ほか (磐田市竜洋支所2階)
- 問合せ先 磐田市歴史文書館  
 Tel 0538-66-9112



製造煙草買入帳



葉煙草売買営業免許証



だいばちぐるま 甘藷切干を大八車で中泉駅まで運ぶ

明治時代以降、磐田を発展させたのは多くの産業でした。その中でも今回は「茶、煙草、甘藷切干、銀行」にスポットを当てていきます。

茶をはじめとしたこれら3つの品々は、それぞれ日本各地や海外にも流通・輸出された一大産業でした。それを支えたのが、相次いで設立された銀行です。

企画展ではこれらの産業がどのように磐田を発展させたのか、文書館所蔵資料と共に迫ります。



## 磐田の産業 ～茶～

静岡県内で茶の生産が盛んになったのは、明治時代初期に徳川家旧幕臣らが牧之原・三方原などに入植して以降のことです。明治初年にお茶の海外輸出とともに価格が高騰すると、磐田では旧幕臣・赤松則良や農業従事者たちが製茶の将来性に目を付け、大茶園をつくります。こうした中で、利潤のみ追い求めた者も現れ粗製乱造を行い、製茶の信用を失墜させます。この不正、不良茶を取締まるため、明治17年(1884)、見付・淡海国玉神社神官である大久保忠利が先頭に立って「見付茶業組合」を結成しました。

忠利は、早くから製茶に注目し、自ら宇治茶園の視察、製茶教師を招くなど、当地方への普及を図りました。今回の展示では、大久保邸にあった製茶工場が描かれた銅版画(複製)や製茶資料などを展示します。



大久保忠利邸宅(製茶工場)

## 磐田の産業 ～<sup>たばこ</sup>煙草～

磐田市内で「煙草」が栽培され始めたのは江戸時代初期です。その後、幕末から明治にかけて広く栽培され、その中から「遠州葉」という品種が生まれました。



『売揚帳』

明治時代には栽培農家の増加と共に煙草業に携わる人も増え、多くの業者が開業しました。中でも明治20年(1887)頃、見付に創業した「栗田煙草合資会社」は当地方一の大きな会社となりました。今回展示する左の『売揚帳』は明治35年(1902)の栗田煙草合資会社の帳簿です。取引していた相手先や扱っていた品物等が詳しく書かれています。また、製造煙草買入帳、葉煙草売買営業免許証、商品を包むパッケージの印刷に使用した版木なども展示します。

磐田市内で栽培された「遠州葉」と磐田市内で製造された「煙草」は各地に流通し、磐田の一大産業として大きく発展しました。

## 磐田の産業 ～<sup>かんしょきりぼし</sup>甘藷切干～

日本での甘藷(サツマイモ)栽培の始まりは寛政年間(18世紀後半)とされ、やがて明治の初めになって大藤村の大場林蔵と稲垣甚七が初めて蒸し切干を製造し、明治30年頃には「井戸ヶ谷切干」の名で広く知られるようになりました。

その後、明治44年(1911)に「磐田郡甘藷切干同業組合」が創立され、生産はいつそう盛んになっていきました。

右の『甘藷切干之葉』は、昭和10年(1935)発行の組合創立25周年記念誌です。磐田産の「干し芋」は、保存食として日本・世界へ流通・輸出されました。



『甘藷切干之葉』

## 磐田の産業を支えた銀行

明治15年(1882)頃から茶や煙草、甘藷切干といった地場産業の資金繰りの必要性などから、地元有力者たちの出資により相次いで地方銀行が設立されます。そして銀行は、地場産業を支え、産業の振興に大きな役割を果たしました。

リニューアルしました！文化財めぐりにオススメ

## 文化財の道しるべ 北部編

このたび、長者屋敷遺跡にある文化財案内板『文化財の道しるべ』をリニューアルしました。『文化財の道しるべ』は、地域の歴史や文化財などをわかりやすく紹介している看板で市内の各地に設置しています。ぜひ、史跡散策にお役立てください。

### 北部の史跡

磐田原台地は、700か所以上の遺跡が眠る埋蔵文化財の宝庫です。磐田原台地北部には、国史跡の銚子塚古墳、小銚子塚古墳や県史跡の米塚古墳、長者屋敷遺跡のほか旧石器時代～弥生時代のムラの跡などが見つかっています。



リニューアルで新たに変更・追加した内容を紹介します！

### 地図情報を追加！よりわかりやすくなりました

これまで表示していた情報に遺跡や古墳群の範囲を追加しました。また、古墳や石碑、秋葉灯籠などをイラストで表し、磐田北部にある文化財を視覚的にわかりやすく表現しました。

### デザインを変更！ より読みやすく

史跡名に下線をひき、目立たせることでより看板を読みやすくしました。



### QRコードを追加！ 現地でパンフレットが見られます

今回のリニューアルで新たにQRコードを追加しました。QRコードを読み取ると、看板で紹介している遺跡や古墳をより詳しく紹介したパンフレットをご覧ください。



## 10月実施の指定無形民俗文化財について

感染症拡散防止のため、10月実施の指定無形民俗文化財は、以下の通りの内容に変更となり、見学は出来ません。ご理解、ご協力をよろしくお願い致します。(10月1日現在)

### ●掛塚祭（掛塚祭屋台はやし囃子）

掛塚祭は中止となりました。屋台の引回し、屋台祭屋台囃子の披露もおこないません。神事は関係者のみで執りおこないます。見学はご遠慮ください。

### ●賀茂神社特殊神饌しんせん

関係者のみで執りおこないます。見学はご遠慮ください。

### ●中野白山神社例祭（白酒）／どぶろく祭

白酒づくりは中止となりました。

市HPでは、民俗文化財を記録した映像を公開中です。

映像を収めたDVDは市内の図書館でお借りいただけます。



掛塚まつりと  
賀茂神社特殊神饌のDVD

## 職員リレー コラム

### 古より特産物である前浜の“かつを”

石津 由行

秋は、読書の秋、食欲の秋など人それぞれ楽しみ方がある。私の場合、後者と祭りである。私が住む福田には、海上守護神を祀る六社神社が鎮座する。例年、秋祭りでは、自治会から選ばれた巫女が海上交通の安全と豊漁を祈願し、浦安の舞を奉納する。また、各町内では屋台の引き回しが行われる。しかし、今年は新型コロナウイルス感染拡大が危惧され、神事のみ執り行われることとなった。

さて、この六社神社には、福田の絵師・大石由太郎が描いた「鰹釣船絵馬」が明治42年（1909）2月、日進丸の船長らによって奉納されている。きっと船長らも豊漁と安全な漁を願ったことだろう。絵馬には、日進丸の水主31人が鰹の一本釣りをしている姿が描かれており、当時の鰹漁や港の様子を知ることができる貴重な資料として市有形民俗文化財に指定されている。



鰹釣船絵馬

織物業で栄えた地域ではあるが、それ以前から漁業は地域を支える産業であったことが窺える、古代の税の一種に調ちようというものが、地方から都へ特産物を納めていたわけだが、遠江国では主に鰹を納めていたことが奈良平城京出土木簡に書かれている。このように、昔から鰹はこの地域の特産物であり、食生活には欠かせないものである。春は初鰹、秋は戻り鰹、忘れていけない味噌たたき。

いずれも美味である。今秋は祭囃子が聞こえずさみしいが、古からの海の恵みである鰹を堪能しながら、祭りの思い出を語らうとともに、豊漁を祈ることとしよう。



鰹の刺身



鰹の味噌たたき

**編** 原稿を編集しながら、干芋と鰹が恋しく  
**集** なった「〇〇の秋」は食欲の秋派の編集  
**後** 担当です。冬に備えているんだ！と言い  
**記** 訳しつつ、満喫したいと思います。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部  
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)  
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1  
電話：0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。 [磐田市 文化財だより](#) [検索](#)

